

【ご参考資料】

## 足元の新興国債券市場について

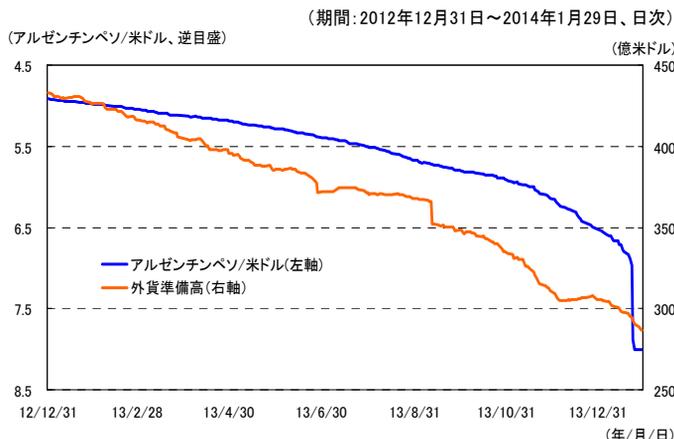
### 新興国に対する懸念の高まり

新興国に対する懸念が世界の金融市場の下押し要因となっています。背景には、米国で量的金融緩和の縮小が始まり、これまで先進国からの資金流入の恩恵を受けてきた新興国経済に悪影響を及ぼすとの思惑に加えて、中国景気の減速懸念が高まっていることなどがあります。金融当局が通貨介入を停止したことによりアルゼンチンペソが対米ドルで大幅に下落したことも、新興国への懸念の高まりに拍車をかけました。一方で、ブラジル、トルコ、インドが政策金利の引き上げを発表するなど、新興諸国も資金流出の抑制につながるような政策を打ち出しています。南アフリカ準備銀行(中央銀行)も29日(現地時間)、約5年半ぶりに政策金利を5.0%から5.5%に引き上げると発表しました。

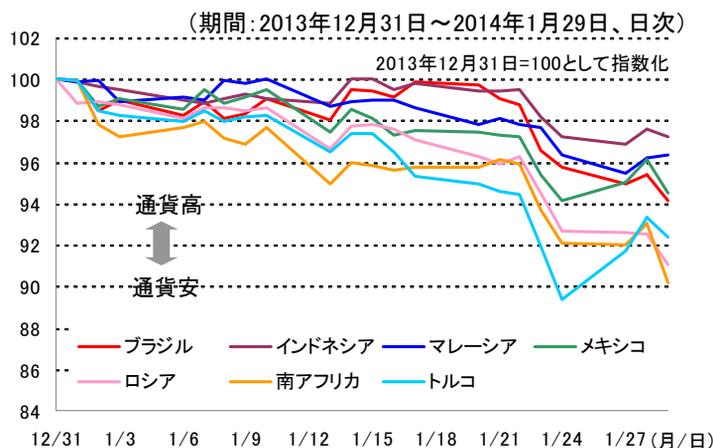
### 現地通貨建て新興国債券市場について

外貨準備の不足や高水準の経常赤字、高いインフレ率など、資金流出に対して脆弱な国を中心に通貨への下落圧力が高まり、現地通貨建て新興国債券は軟調に推移しています。中でもトルコリラは、大規模な汚職事件の発覚に端を発する政治的緊張の高まりや、中央銀行が金融引き締めにも消極的な姿勢を示していたことなどから大幅に下落しましたが、1月28日(現地時間)に臨時の金融政策決定会合で利上げを発表したことで、通貨は一時大きく反発しました。トルコをはじめとする新興諸国による金融引き締めの強化は、新興国からの資金流出圧力を軽減し、現地通貨建て新興国債券市場の安定化に寄与すると考えられます。

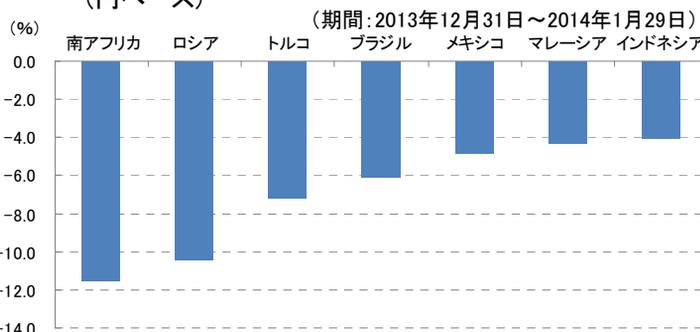
【図1】アルゼンチンペソの対米ドルレートと外貨準備高



【図2】新興国通貨の対円為替レート推移(指数化)



【図3】現地通貨建て新興国債券の年初来リターン(円ベース)



(出所)Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

【ご参考資料】

2014年1月30日

野村アセットマネジメント株式会社

米ドル建て新興国債券市場について

米ドル建て新興国債券の利回りは、年初来、低下傾向で推移していたものの、足元、一部新興国に対する懸念が高まる中で、上昇する動きとなっています。

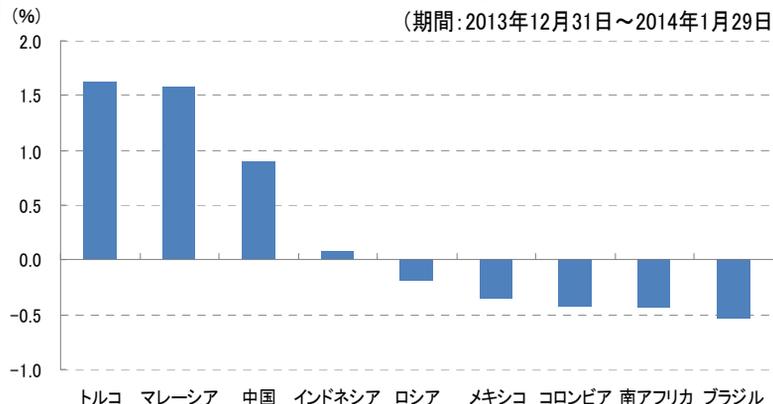
先月17-18日のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、量的金融緩和の規模縮小が決定されて以降、米国債利回りは上昇し、年末には10年債で3%を超えました。一方、1月初旬に発表された12月の米雇用統計が市場予想を大幅に下回ったことに加え、1月末に償還予定の中国の「理財商品」がデフォルトする可能性があるとの報道やアルゼンチンペソの急落をきっかけに、米国債利回りは一転、低下しました。28-29日開催のFOMCでは、事前の予想通り、資産購入額の減額が決定されましたが、一部新興国市場への懸念などを背景に株式市場が下落する中、米国債利回りは10年債で2.7%を割り込む水準まで低下しています。

一方、米国債に対するスプレッドは、年初来、金融市場全般が落ち着いた動きとなる中でほぼ横ばいで推移していましたが、アルゼンチンペソの急落を材料に、足元、中南米諸国や投資適格未満の信用格付の国を中心にスプレッドが拡大しました。米ドル建て新興国債券利回りは、米国債利回りが低下傾向で推移したものの、米国債に対するスプレッドが拡大したことを受けて、年末に比べてやや上昇しました。

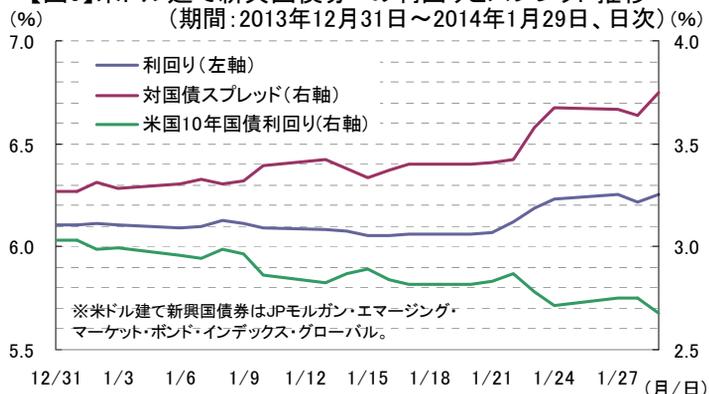
しかし、一部の新興国債券利回りは上昇しているものの、投資適格以上の信用格付を中心に大半の国では落ち着いた動きとなっています。新興国全般の中長期的な信用力については大きな変化はなく、今後は、一部新興国に対する懸念の後退とともに、市場全般で落ち着いた動きを取り戻し、米ドル建て新興国債券の利回りは安定した推移となることを想定しております。

以上

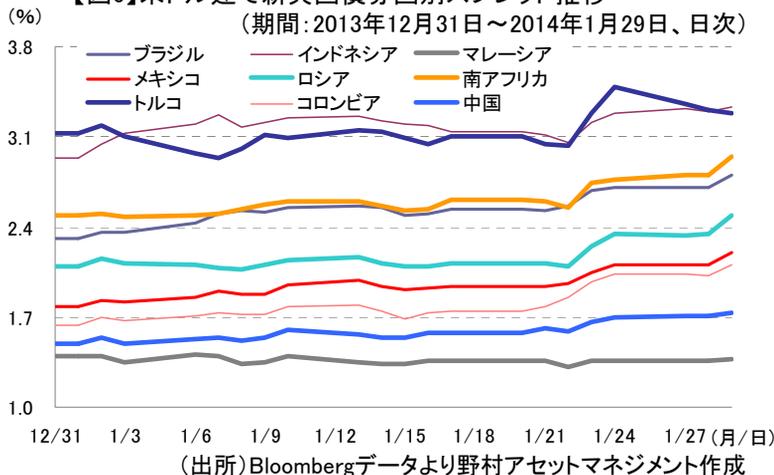
【図4】米ドル建て新興国債券の年初来リターン(米ドルベース)  
(期間:2013年12月31日~2014年1月29日)



【図5】米ドル建て新興国債券の利回りとスプレッド推移  
(期間:2013年12月31日~2014年1月29日、日次)



【図6】米ドル建て新興国債券国別スプレッド推移  
(期間:2013年12月31日~2014年1月29日、日次)



JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバルは、J.P.Morgan Securities LLCが公表している、エマージング・マーケット債を対象としたインデックスであり、その著作権および知的財産権は同社に帰属します。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。